
そして、君は空になった

‡ 零 美優 ‡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そして、君は空になつた

【Zコード】

Z2947B

【作者名】

ヰ雫 美優ヰ

【あらすじ】

美優は普通の高校生。あるとき美優はレイプされたのです。その時助けてくれた勇をどんどん好きになっていく美優ですが…

++第一章++最悪のクリスマス（前書き）

「ここにちはー霧 美優です！まだまだ全然小説についてわからない
美優ですが、どうぞあたたかく見守ってください！」

十一章 十最悪のクリスマス

十一章 十

「最悪のクリスマス」

「ありえない！」

私、椎野 美優「シイノ・ミユ」は大声でさけんだ。友人の森田美紀「モリタ・ミキ」は、アタシとのクリパをすっぽかして、彼氏といちやつさやがって！

そのうえ終電には間に合わないし……！

しうがなく駅の椅子にすわつこんだ。
もつー。

ケータイをいじつてると、うじうから知らない男がいきなり抱き着いてきた。

「こやつーなにすんのよー……！」

すると、

「どかないよおー一緒にあそぼーー！」

とニタアと笑つた。

「いやだーどかないと、警察よぶからー！」

すると、

「いいのかなあ～そんなに強がつちやつて～」

男はナイフをだした。「や、やめてよー私を殺すの？」

「女の子って、こぞとなると急に声かえて優しくなるんだよね～」

「お願い、帰らせて？」

「お願いするときはもうとやー敬語つかいなよ…」

「お願いします。」

「いいよ…」

よかつた。

「でも、ね、俺とやつたらね?」

「え…いやだよ…やめてっ」

「ごめんねえ〜いたくしないからさ。」

「いやだよー誰か助けて!」

「大声だと殺すのぞ!」

いやだよ…

思いどおりにされるなんて。

「いい子だねえ〜じゃあ服ぬがすよ〜?」

私は首を横にふつた。「なに?自分で脱ぎたいの?」

「ちがいます…」

「だつたらはやく!」

そういうて男はナイフであたしの服をきつた。

「かわいい下着きやがって」

そういうてパンツもぬがされ、あたしはすっぽんぽんだった。

男は自分のものを美優にいれて、腰をふつていた。

「気持ちい…?」

美優はもう意識が朦朧としていた。

男はあきたのか、そのまま美優をほつたらかしにしてしまつた。

するとそこに、

「大丈夫?」

と誰かがきた。

見覚えのある顔！

同じクラスの飯塚 勇「イイズカ・イサム」だった。

「い、いたむう～うえ～ん～」「とりあえず服きよ～」
そういうてボロボロになつたブラウスをさしだした。
スカートは無事だつた。

「ほら…」

そういうて勇のジャンバーをさしだした。

「ありがとお～」

無理して笑顔をつくつた。

すると勇はぎゅっと抱きしめてくれた。

「泣きたいときは泣けよ～俺がいるから…」

「うん…いたむう～あなたがいてよかつたよお～ふえ～ん

「子供みて～」

そういうて勇は笑顔で頭を撫でてくれた。

「ありがと～元氣でたよ～」

「よかつた～明日から学校これるか？」

「う、うん…」

「あんま、無理すんなよ」

次の日

わたしはちゃんと学校にいつた。

「あ、きたきた～美優、おはよ～」

「うん、おはよ～昨日はありがとね？」

「うん、全然OK！」

「あはは、勇はやさしいね～」

「え…俺が？」

「うん…」

「照れる…」

その時の勇の顔がホントに可愛くて、思わずキスしたくなつた。

「それじゃー鞄用意しないとだからー。」

「ン、OK

机に向かつて用意をしていると、美紀がきた。

「美優おっはよお」

私は美紀みて泣きたくなつた。

涙目になると、

「ちよつ、どうしたの？ 美紀何かした？」

首を横に振る。

そして、「放課後にはなすね！」

「うん…」

その日、勇はかなり気をつかつてくれた。
私は聞いてみた。

「勇つてさ、彼女いるの？」

「ンー、前はいたけどもう別れたよ？」

「そつかあー」

「うん、美優は彼氏いるの？」

「ううん、いない」

「ほおーで、今日おくつでーうか？」

「ン、大丈夫！ 今日は美紀と帰るからー。」

「そか！」

「うん！」

放課後

「美紀いー！」

「あ、美優！ 話しつて何ー？」

「ここじゃ人いるし… あそこのかフェいー？」

「OK」

私は紅茶を頼んだ。

「で、どうしたの？」

「実は……」

昨日のこと話をした。

「え…美優にそんなことがあったの？」

美紀は完全に泣いてる。

「うん…」

「ゴメン。あたしのせいだ。ごめんなさい」

「やだなあ～誰も美紀のせいなんて言つてないよ～」

「美優、ごめんね、つらかつたよね、アタシのせいだよ…」

「美紀、誰も美紀のせいなんて言つてないよ～」

「でも…」

「あたしは、美紀がまきこまれなくてよかつたって、思つてるよ。

「美優…あんたはどこまで優しいのよ…」

あたしは、美紀のあたまを撫でた。

ありがとう。

美紀。

美紀大好き。

こんな心配してくれるなんて…

「美紀、泣かないでよ。美紀が悪いんじゃないでしょ？」

「でもっ、アタシのせい…だよお…」

「美紀、今日はもう帰るわ。美紀のせいじゃないよ」

美紀は、ホント？

つて顔でみつめてきた。

あたしは頷いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2947b/>

そして、君は空になった

2010年12月19日02時10分発行